他国との関係から考える

「近現代史と政治」授業化のポイント

内在的理解と複眼的思考の柔軟な使い分けを

馬居 政幸

1 事実と真実は一つではない

「近現代史」「政治」「他国」という三種の変数を「関係」という概念で結ぶ授業のポイントを、との編集部の依頼。一衣帯水の国との関係が史上最悪とされるこの時期になんと面倒な。これが依頼書を読んでの最初の印象だが、それ故にこそ関係転換の道筋が見えてきた。それを六種に整理し本誌読者に提供しよう。

その第一原則は、「近現代史では事実も真実も一つではない」である。

近現代史上の事実とされる社会事象は、その根拠となる政治的文脈での意味づけ（真実）も含め、事実の構成に関係する国と人によって異なる。例をあげよう。次の①～③は、戦後東アジアの構図を決定する争いの名称について、関係する国の友に質問した結果である。

①「それはユギオですね」

②「私たちは抗美援朝といいます」

③「祖国解放戦争でしょうか」

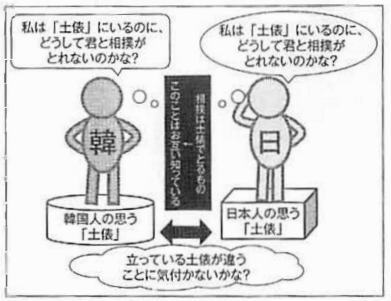
いうまでもなく朝鮮戦争のことだが、この名称は日本だけ。①は一九五〇年六（ユギ ユック）月二（ゴイ）五（ユオ）日に北韓（北朝鮮）の戦車が北緯三八度線を越えて攻めてきたとの意。一九八八年ソウルオリンピックの年に訪問した韓国大田市立中学の国史担当教師に教わった。

②は一九九八年度の私のゼミを受講した中国人留学生の答え。美国（アメリカ）に抗して、朝鮮（北朝鮮）を援けたのは中国人民軍との意と理解した。

③は北（北朝鮮）が用いる名称。昨年夏、政権交代後の韓国での調査中に、研究パートナーの韓国国立大教授から、この名称への同意者が韓国の現政権を支える人達のなかにいるとの見解（批判！）とともに得た情報である。

情報収集の年と提供者の属性を記したのは、時期と立場の変化で対立する名称の併存を示唆するためだが、その国を「他国」において、第二の原則に進もう。

2 土俵の違いに気付くことから



次の図が第二の原則を示すイラスト。

「私は『土俵』にいるのに、どうして君と相撲がとれないのかな?」と呟く韓国と日本。「相撲は『土俵』で取るもの」このことはお互い知っている」が、「立っている土俵が違うことに気付かないかな?」と呟く影の声が第二の原則。

ただし、気付くだけでは関係を結べない。選択肢は相手の土俵に入る、こちらの土俵に入れる、新たな土俵を創るの三種だが、共に順守すべき原則がある。それが第三の原則「異文化理解の方法」。

3 異文化理解その1……融和編

異文化理解の原則は「目線をまっすぐ謙虚に」。韓国の夏、必ず食する팥빙수（パッビンス）の失敗談で説明しよう。

ソウル市立初等学校の崔松姫先生から最近のパッビンスの写真が届いた。かき氷状に削られたミルクの上に黄粉とアーモンドが乗る。東京にも専門店があるとのことだが、これは日本のかき氷と融合したパッビンス。韓国原産は팥빙수（小豆）を빙수（ピンス）に盛りつけたもの。二つ、日本のかき氷と異なる。一つは友達（恋人）と一緒に食べ合うために（情緒共有の文化）、直径が二〇センチ前後と大きい。二つはビビンパのように混ぜ合わせて食べる（新たな味創造の文化）。この二つの文化の価値を知らずに韓国の学生と入った店で学生数分注文し、その大きさに驚いたのが失敗1。想定より多く並ぶパッビンスに喜びワイワイガヤガヤ混ぜ始めた学生への違和感で行儀が悪いと叱ったのが失敗2。この失敗の原因は店のポスターから日本のかき氷と同じと判断したこと。ソウルの慶熙大に客員研究員として一年間滞在した二〇〇二年夏の出来事である。

勿論、ここでの課題はパッビンスの食べ方ではない。「目線をまっすぐ謙

虚に」を第三の原則とする理由である。

アジア各国の近現代史は時間のズレを伴って日本の近現代史と重なる。そのズレを工業化の遅れや前近代の残滓とみる上から目線の払拭。自国文化を判断軸から外し、積み重ねられた民と文化の地を這う歩みに学ぶ〝謙虚〟さが、他国との関係の授業づくりの条件である。

他方で、国の歴史という概念自体が形成途上で、政治が歴史を創る国。政治権力の転換で建国の歴史が変わり、対立を前提に関係の仕方を問う国もある。その際に必要になるのが第四の原則。

4 異文化理解その2……対立編

「嫌韓」と「反日」の対立として韓国と日本の関係を総括されがちだが、これは間違い。日本のかき氷と融合したパッピンスが示唆するように、これほど両国の人が行き交い、文化が融合する時代はなかった。近現代史の創り手は政治権力者ではなく時代の先端を生きる若者と知るセンスの重要性を指摘しておこう。

加えて、複数の対立軸（土俵）を抱える国を相手にする場合は〝したたかな原則〟が必要。それを「内在的理解と複眼的思考の柔軟な使い分け」と表現しよう。

内在的とは相手の立場に立つこと。この方法には弱点が。相手国に政権交代があれば、前政権の内在的理解を理由に新政権とその支持層から批判・排除される。複数の立場の理解を臨機応変に使い分ける器量と度量が必要な理由である。

北の侵略を防ぐ事変がいつのまにか南の人民を救う戦争になり、前政権を支えた政治勢力の排除が進む。その尺度が〝親日の積弊〟。逆に、現政権への批判軸は〝従北〟。いずれも過去の事実の対立する意味づけが、現在の国内と日本との関係を分断し、新旧政権関係者による互いの排除の正当化に転用される。民主的を装う法の恣意的な再解釈の強弁にもなる。この表現は、現政権を支持する人たちから見れば批判の対象になる。

他方、現政権の中心者は一九六〇年代から八〇年代の時期に、権力による取り締まりの対象者であった。友の命を牢で奪われた〝恨〟を〝正義〟の刃で晴らす思いが読み取れる。ただし、この表現は逆の立場から批判されよう。〝内在的理解〟と〝複眼的思考〟を〝柔軟に使い分ける〟との意を原則に記す理由である。

しかし同時に、いずれも日本が歩んだ道でもある。これが第五の原則に。

5 他国を自国と自己の姿見に

李承晩による大韓民国建国を美（米）国の傀儡と批判し、金日成の建国に半島統治の正統性を夢見る政治勢力。朝鮮戦争を米国の陰謀、北の建国をこの世の楽園とみた半島研究者。いずれも日本に少なくない。日帝時代の半島の被害者の発言で政敵を糾弾し、他国との関係で統治の失敗を隠蔽する政治の判断を日本近現代史に見いだす事も難しくない。イデオロギーによる正当化の理不尽さと虚しさの記憶に重なるセクト崩壊の事実を近現代史に求めることも可能。韓国の国民情緒法と同様に超法規を政治的判断の正当化に用いる歴史もある。

このように、他国の理不尽さへの違和感や拒否感を、〝自国と自己の隠れた姿〟が写し出される鏡と見る〝自己省察の勇気〟が五番目の原則である。そして、他国の国内の対立が自国の民に不利益をもたらすことへの対処が第六の原則。

6 社会科としての矜持

他国とりわけ隣国とは、同一の時空の事象を相反する利害を伴って経験することが多々ある。その記憶が両国の近現代史の対立点となり、事象の選択と意味づけが現在の政治的判断に左右されることも避けえない。それ故にこそ、未来を担う学習者への社会科授業づくりには上記五種の原則が必要になる。

だが他方で、自国の民の利益を守る視点からの選択肢の準備も忘れてはならない。とりわけ時の政府の見解の位置づけが重要。その理由と背景の考察と他の選択肢への視点の提示が課題。考察と提示の内容と方法が、学習者の状況で異なることも付言したい。自己の判断に責任を取る資質と能力の形成途上にある児童生徒に、教壇から価値判断を含む事象の評価を語ることに禁欲であること。この原則から外れずに取りうる選択肢を功罪、利害、得失等とともに語る。これが社会諸科学の成果の上に立つ社会科という教科の役割（責任）と考える。

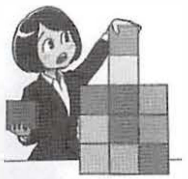
さらに、政治と経済の領域での利害得失、あるいは歴史と文化に起因する独断と偏見による他国との対立。これらの声がどれほど大きく強くとも、社会科の学習では、関係する国と民の批判につながる言葉を用いてはならない。自国の文化や法と異なる原則があることを理由に、国と民への批判と非難、差別と排斥を選択肢におく授業があってはならない。

何よりも、迫害や拘束、武器をとっての戦いへの選択肢を封じることを明白にすること。これこそ、敗戦を契機に誕生した社会科という教科の矜持である。このことを上記五種の原則の土台となる第六の原則として強調しておきたい。

〈静岡大学教育学部名誉教授〉

教育科学
社会科教育
2019年9月号 №725

特集
「近現代史と政治」授業づくりパーフェクトガイド



視点1 「近現代史」の授業をどう構想するか—課題と授業デザイン
①おさえたい課題と授業デザイン……江間史明 4
②主体的な学習につなげる教材研究・教材開発……河原和之 8
③見方・考え方を働かせて学ぶ調査・体験活動プラン……勝山元照 12

視点2 「政治」の授業をどう構想するか—課題と授業デザイン
①おさえたい課題と授業デザイン……樋口雅夫 16
②主体的な学習につなげる教材研究・教材開発……橋本康弘 20
③見方・考え方を働かせて学ぶ調査・体験活動プラン……中平一義 24

視点3 近現代史と政治がわかる「この人物」お宝授業ネタ&エピソード
①近現代史：近代の日本（幕末～第一次世界大戦まで）……角田将士 28
②近現代史：近代～現代の日本（戦後復興・経済成長・現代まで）……田山修三 30
③政治……藤本将人 32

視点4 教えるのが難しい「このテーマ」授業でどう扱うか
①戦争と平和……今野日出晴 34
②領土……渡部竜也 38
③選挙……桑原敏典 42
④税……吉村功太郎 46

視点5 他国との関係から考える「近現代史と政治」授業化のポイント……馬居政幸 50

視点6 歴史遺産から考える「近現代史と政治」授業化のポイント……寺本潔 54

視点7 【授業最前線】私が教える「近現代史」おすすめ授業モデル
①小学校：近代の日本（幕末～第一次世界大戦まで）……鍋田宏祐 58
②小学校：近代～現代の日本（戦後復興）……塩路文哉 62
③中学校：近代の日本（開国と幕末の動乱～第一次世界大戦まで）……飯島知明 66
④中学校：近代～現代の日本（戦後復興）……村上利雅 70
⑤高等学校……福田健志朗 74

視点8 【授業最前線】私が教える「政治」おすすめ授業モデル
①小学校……田本嘉昭 78
②中学校……徳田和洋 82
③高等学校……山崎諒介 86

小特集 地歴連携で「時間認識・空間認識」を育てる……山本實 90

連載
◆最新情報で徹底解説！ どうなる・どうする社会科教育……小倉勝登 94
◆〈筑波大学附属小学校発〉「主体的・対話的で深い学び」をつくる教材研究ABC……山下真一 96
◆ICTも有効活用！板書&資料でよくわかる授業づくりの教科書……朝倉一民 98
◆100万人が受けたい！見方・考え方を鍛える社会科授業 最新ネタ……河原和之 102
◆社会科で思考と感情（エンパシー）をどう育てるか……原田智仁 106
◆「見方・考え方」の育ちをとらえる！パフォーマンス評価でつくる社会科授業モデル……市川和也 108
◆歴史的思考力を伸ばす授業デザイン……田尻信壹 112
◆見方・考え方を働かせて学ぶ！ 地理授業デザイン……井田仁康 114
◆小・中・高を通じて「主権者の育成」にどう取り組むか—教材&授業アイデア—……橋本康弘 116
◆新学習指導要領 全面実施直前レポート……澤井陽介 118
◆〈全国社会科教育学会 会員リレー連載〉社会科は社会とどのように関わるのか—社会に開かれた社会科とは—……岡田了祐 120
◆〈見方・考え方を鍛える！〉学び直す日本史 歴史探究ミニツアーpart2……寺尾隆雄 124
◆わが県の情報 ここに「この授業あり」滋賀県の巻……岸本実 126

＊表紙デザイン＝藤井一

社会科教育

教育科学

2019年9月1日発行(毎月1回1日発行) 56巻9号 昭和41年10月7日 第三種郵便物認可 ISSN21

No.725
September
2019
9

特集

「近現代史と政治」

授業づくりパーフェクトガイド

小特集

地歴連携で「時間認識・空間認識」を育てる

社会科教育 2019 9 特集 「近現代史と政治」授業づくりパーフェクトガイド

明治図書

連載

① 最新情報で徹底解説！ どうなる・どうする社会科教育 小倉勝登
② 〈筑波大学附属小学校発〉「主体的・対話的で深い学び」をつくる教材研究ABC 山下真一
③ ICTも有効活用！板書＆資料でよくわかる授業づくりの教科書 朝倉一民
④ 100万人が受けたい！見方・考え方を鍛える社会科授業 最新ネタ 河原和之
⑤ 社会科で思考と感情(エンパシー)をどう育てるか 原田智仁
⑥ 歴史的思考力を伸ばす授業デザイン 田尻信壹
⑦ 見方・考え方を働かせて学ぶ！地理授業デザイン 井田仁康
⑧ 小・中・高を通じて「主権者の育成」にどう取り組むか —教材＆授業アイデアー 橋本康弘
⑨ 新学習指導要領 全面実施直前レポート 澤井陽介
⑩ 〈見方・考え方を鍛える！〉学び直す日本史 歴史探究ミニツアー part2 寺尾隆雄

リレー連載

① 「見方・考え方」の育ちをとらえる！パフォーマンス評価でつくる社会科授業モデル 市川和也
② 〈全国社会科教育学会会員リレー連載〉社会科は社会とどのように関わるのか —社会に開かれた社会科とは— 岡田了祐
③ わが県の情報 ここに「この授業あり」 滋賀県・岸本 実

Printed in Japan 定価 本体 759円 +税 発行所＝明治図書出版株式会社 http://www.meijitosho.co.jp 東京都北区滝野川7-46-1 〒114-0023 振替00160-5-151318